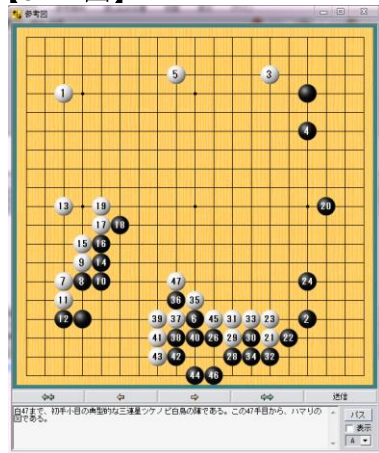


15.ハマリのパターン2

50-1 図の黒 A、白 B の交換があれば、防げたハマリの図：【51-1 図】 白 47 まで、初手小

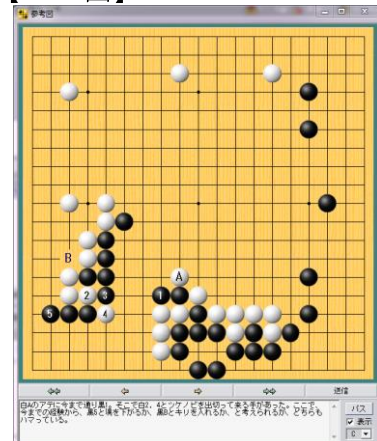
【51-1 図】



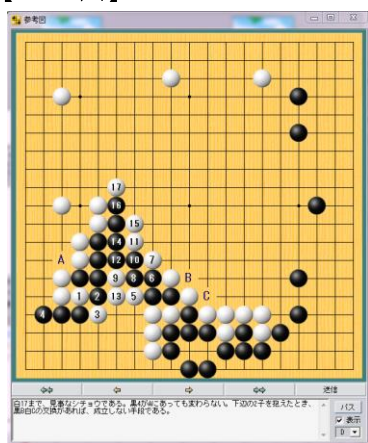
目の典型的な三連星ツケノビ黒鳥の陣である。この 47 手目から、ハマリの図である。

【51-2 図】白 A のアテに今まで通り黒 1。そこで白 2, 4 とツケノビを出切って来る手があった。ここで、今までの経験から、黒 5 と隅を下がるか、黒 B とキリを入れるか、と考えられるが、どちらもハマっている。

【51-2 図】



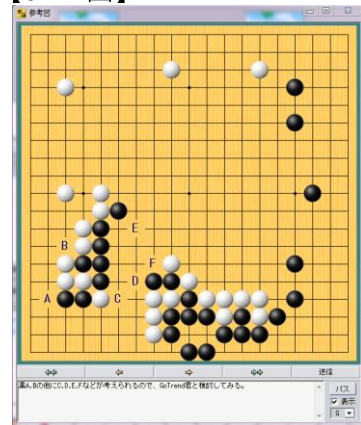
【51-3 図】



【51-3 図】 白 17 まで、見事なシチョウである。黒 4 が A にあっても変わらない。下辺の 2 子を抱えたとき、黒 B 白 C の交換があれば、成立しない手段である。この図により、下辺の 2 子を抱えるとき、黒 B とアテを打つ必要があり、その結果、下辺右側の白は容易に生きることになる。そのため、右辺の開きは、星下となる。

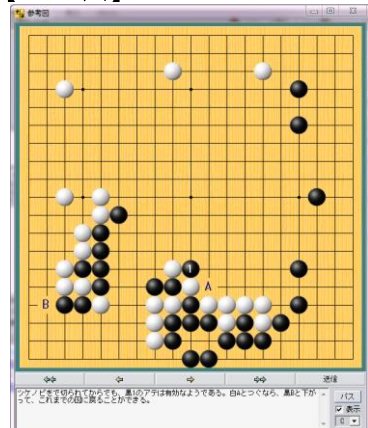
【51-4 図】 黒 4 でハマリを避ける方法を考えてみると、黒 A や B でなく、C, D, E,

【51-4 図】



F などが考えられるので、GoTrend 君との検討課題としておく。

【51-5 図】



【51-5 図】 ツケノビを出切られてからでも、黒 1 のアテは有効なようである。白 A とつぐなら、黒 B と下がって、これまでの図に戻ることができる。この図が成立するなら、やはり黒 1 のアテは必要になるまで（出切られるまで）保留すべきだ。